

令和 7 年度

運 営 に 関 す る 計 画

中 間 評 価

大阪市立大江小学校

大阪市立大江小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治 7 年(1874 年)に創立され、150 年を超える歴史と伝統のある学校である。親子三代以上に渡って本校に通う地域の方も多く、保護者や地域の方々にとっても、本校に対する期待と誇りは非常に大きなものがある。長い歴史と受けつがれた伝統を引き継ぎつつも、新たな実践を取り入れながら未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童の規範意識は高く、きまりや規則を守って生活しようと努力する態度が見られる。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多い。学力は比較的高く、真剣に授業を受ける姿が常に見られる。これらを維持していくことを必須ととらえている。

そのうえで、言語力を基盤に言語活動へ深化させ充実させていくことが本校の課題である。その課題解決に加えて、自ら問いを発見したり他者の考えと交流させたりしながら新たな価値を見出していく素養のある集団に育成していく。

また、児童数に対して運動場が狭い学校であり、意図的計画的に体力・運動能力の育成をしていく必要性もある。環境に左右されず、生涯体育の観点から自ら取り組み必要とする体力をつけていくことにも取り組みたい。

さらには、グローバル化が急速に進む現代にあって英語力の向上にも取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 校内の児童アンケート「自分には、良いところがある。」において肯定的に答える割合を 90%以上にする。
- 校内の児童アンケート「元気に楽しく学校へ通っている。」において肯定的に答える割合を 94%以上にする。
- 校内の児童アンケート「まわりの人にやさしくしようしたり、ひとりでいる子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を 8%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内の児童アンケート「学習で話し合う時には、自分からすすんで意見が言えた。」において肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。
- 校内の児童アンケート「自分からすすんで学習に取り組めた。」において肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。
- 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 全国学力・学習状況調査における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」に対して「ほぼ毎日」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 校内の教職員アンケート「日頃から学びたくなる仕掛けや体を動かしたくなる仕掛けなど、子どもたちがすすんで〇〇したくなる仕掛けづくりを心掛けている。」と肯定的に回答する割合を 100%にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

※運営に関する計画再掲

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。
- ② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。
- ③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようとしたり、ひとりでいる子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を6%以下にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

1 出席人数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動をする事による出席認定を含む)

2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。
- ② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を86%以上にする。
- ③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていき、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。
- ④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

大阪市立大江小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

- ⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を **45.0%以上**にする。
- ⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ① 教職員アンケートの「授業において週に 1 回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を 85%以上にする。
- ② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。
基準 1 : 45.3%以上 基準 2 : 70.5%以上
※基準 1… 1 か月の時間外勤務実績が 30 時間を超えないようにすること
※基準 2… 1 か月の時間外勤務実績が 60 時間を超えないようにすること
- ③ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合 100%を維持する。
 - ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。
 - 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を満たす割合を 77% (100%を維持) 以上にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。 R6: 90.6%</p> <p>② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。 R6: 93.6%</p> <p>③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようとしたり、ひとりでいる子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を6%以下にする。 R6: 6.8%</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。 R6: 80.6%</p> <p>⑤ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>1 出席人数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動をする事による出席認定を含む)</p> <p>2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【2 豊かな心の育成】</p> <p>クラス・学年内での友だちとの関わりやたてわり班活動など、様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができるようにする。</p>	C
<p>指標 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。 R6: 90.6%</p>	
<p>取組内容② 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向が見られる児童の情報を共有し、その子に合った温かな対応を行っていく。また、保護者やSC、SSWなど関係諸機関とも連携し、一人も取り残すことなく、すべての児童とつながっていくこと、心を通わせていくことに努める。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートで、「元気に楽しく学校へ通っている。」において、否定的な回答をする児童の割合を6%以下にする。 R6: 6.8%</p>	

<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>各学年、情報モラル教育を推進していき、情報の取り扱い方や規範意識を養うことができるようにする。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。R6: 93.6%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>「自分には良いところがある」では、全学年で「ポカポカ言葉」や「友達の良いところ見つけ」、「ありがとうを伝えよう」といった承認的な活動が広がっている。こうした取組を通して、子どもたちが自分の良さを見つれたり、友達の良いところを素直に伝えたりする姿が増えてきている。また、縦割り班やペア学年での活動を通して、年下の子に優しく接したり、自分の役割を果たしたりするなど、「自分も誰かの力になっている」という実感が自己肯定感の向上につながっている。</p> <p>一方で、アンケート結果では89.8%と目標の91%にはわずかに届いておらず、自分の良さを実感しにくい子へのていねいな関わりが今後の課題である。各学年で行われている「ポカポカ言葉」や「友達の良いところ見つけ」などの取組を、学年学級の実態に合わせて行い、その後の効果の検証が必要である。</p> <p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「元気に楽しく学校へ通っている」では、否定的回答が6.6%と、目標6.0%にはわずかに届いていない。</p> <p>しかし、どの学年でも、不安を抱える子どもに寄り添い、登校を支える工夫が継続的に行われている。担任だけでなく、保護者・養護教諭・スクールカウンセラー・SSWと連携し、登校への小さな一歩を大切にした支援が進んでいる。また、「心の天気」などを活用し、日々の気持ちを共有することで、子どもたちの心の変化を見取る取組も行われている。改善傾向にある児童もいるので、引き続き、各担任の取組に加え、関係各所との連携が必要である。</p> <p>また、不登校傾向の児童とオンラインでつながる際に、機器の不足により、思っているような成果を出すことができないケースもある。速やかに、整備することが必要である。</p> <p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「していいことと悪いことを意識して生活できている」については、肯定的回答が94.7%と目標を上回り、全体として高い成果を示している。道徳や学級活動、情報モラル教育を通して、子どもたちは「どうすることがよいのか」「相手の気持ちを考えたときにどう行動すべきか」を考える力を伸ばしている。</p> <p>高学年ではスマートフォンやSNSの使い方を題材に、自分たちの生活に密着した学びが進んでおり、現実的な判断力が育っている。中・低学年でも、日常生活での具体的な場面を通して「よいこと・悪いこと」を繰り返し確認し、正しい行動を選ぶ力を身につけつつある。</p> <p>今後は、理解にとどまらず、実際の行動へと結びつける振り返りや実践活動の機会を増やすことで、さらに定着を図り、全学年が目標を達成できるようにしていく</p>

大阪市立大江小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。【R6: 学習が好き 82.1%、進んで学習 84.9%】</p> <p>② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を 86% 以上にする。 R6:85.9%</p> <p>③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていき、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を 85% 以上にする。 R6:83.5%</p> <p>④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を 80% 以上にする。 (新設)</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45.0% 以上にする。 R6:44.7%</p> <p>⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。 R6:82.2%</p> <p>⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を 92% 以上にする。 R6:91.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①ー1 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。</p>	B
<p>取組内容①ー2</p> <p>児童が多様な他者と協働する方法を理解し、思考力と表現力を身に付けるよう指導の手立てを工夫する。</p>	
<p>指標 児童アンケートを実施し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 86% 以上にする。 R6:85.9%</p>	

※裏面に記入欄あり

<p>取組内容②【４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学級文庫や図書室の整備、図書の時間の充実や読み聞かせなど本に親しむ機会を充実させ、本を読む楽しさ、本を読んだ達成感や成就感を味わえるような指導や取り組みを進めていく。</p>	B
<p>指標 児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的に答える児童の割合を８５％以上にする。 R6:83.5%</p>	
<p>取組内容③【５ 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向け、児童が進んで運動に取り組めるよう、楽しい体育授業づくりや運動環境整備を進める。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を９２％以上にする。 R6:91.3%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】 (中間評価・記入欄)</p> <p>取組内容①</p> <p>児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合…85.1%</p> <p>発達段階や各教科に応じて、ペアやグループ、全体と話し合い形態を工夫しながら対話する機会を設け、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしている。また、自分の考えを持ち、そのうえで協働的な学びを展開することで、思考力・表現力を身に付けるよう指導している。</p> <p>今後の課題として、友達との対話を通して、考えが広がったり深まったりしたことを実感できるような振り返りや問いかけを工夫していく。</p> <p>取組内容②</p> <p>児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的に答える児童の割合…86.5%</p> <p>図書委員会や図書館支援員さんによる読み聞かせや、天王寺図書館からの本の貸し出しなど、本に親しめる機会が設けられている。また、学級でも、おすすめの本を紹介しあったり、担任による学習を深める図書の読み聞かせや、読書記録の活用を進めたりしている。</p> <p>取組内容③</p> <p>児童アンケート「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合…90.2%</p> <p>多くの児童が体を動かすことは楽しいと感じているが、目標にはわずかに届いていない。</p> <p>体育の学習中は、グループでアイデアを出し合ったり協力したりできるような活動を行ったり、学習カードを活用したりして、楽しく進んで体を動かすことができるように工夫している。</p> <p>運動が苦手だと感じている児童も達成感を味わえるような、ゲーム性を取り入れた運動や個別の目標設定を工夫していく。また、学級のみんなで遊んだり、委員会によるチャレンジタイムなどを作ったりするなど、楽しんで体を動かせる機会を作っていく。</p>

大阪市立大江小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 教職員アンケートの「授業において週に 1 回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を 85%以上にする。(新設)</p> <p>② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。</p> <p>基準 1：45.3%以上 基準 2：70.5%以上</p> <p>※基準 1…1 か月の時間外勤務実績が 30 時間を超えないようにすること</p> <p>※基準 2…1 か月の時間外勤務実績が 60 時間を超えないようにすること</p> <p>③ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。</p> <p>④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <p>○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。 R6:100%</p> <p>○ ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。</p> <p>○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす割合を 77%（100%を維持）以上にする。</p> <p>(R6： 基準 1：76.47% 基準 2：100%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、各学年の発達段階に応じ協同学習支援ツールを用いた学習を実施する。</p>	B
<p>指標 年度当初に校内活用ルールを明らかにするとともに、年間3回以上のICTに関する校内研修を実施し、「効果的なICT活用事例」の共有を図る。</p>	
<p>指標 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用した授業を実施する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。</p>	

※裏面に記入欄あり

<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ゆとりの日を月に1回設定・実施する。さらに、学研の日（ゆとりの日扱いとする）は18時退勤の取り組みを進める。</p>	B
<p>指標 時間外勤務実績 60 時間以上の教職員の割合 0%を維持する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>（中間評価・記入欄）</p> <p>① 教育D Xの推進</p> <p>児童は端末活用に意欲的であり、児童の学習者用端末利用に関する肯定的な回答割合は依然高い。（タブレット端末を使って友だちと学習することが楽しい：93.3%）</p> <p>ただ、今年度の学習者用端末活用率80%以上の日数は、8月末時点で5日（授業日数55日中）である。授業日において、目標『児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。』には届いていない。使用率は高まってきているが、全教職員に浸透しているとは言い難く、学年・教科により活用度にばらつきが見られる。定期的な活用機会の確保や、授業計画の段階から端末を組み込む意識の定着が課題である。また、児童の心情把握ツール「心の天気」を活用しているが、今後は教員全員が毎日確認し、雨の日が続く児童に適切に声をかけるなど、よりきめ細かな支援が行えるよう改善を図る。</p> <p>今後の研修計画の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：新規導入される Chromebook 端末の操作・授業での活用方法の研修(11月10日) ・第2回：学校HPのリニューアルに伴う、操作・更新方法の研修(3学期) ・第3回：効果的な授業実践事例の共有と、学習指導計画への端末活用の組み込み方(3学期) <p>② 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>指標である『時間外勤務実績 60 時間以上の教職員の割合 0%を維持する。』は現在も維持することができている。</p> <p>ただ、勤務時間に関して、昨年度より増加し、市平均を上回る結果となった。業務量の増加や業務の偏り、「ゆとりの日」の運用が十分に徹底できなかったことが考えられる。今後は、「ゆとりの日」の確実な実施に加え、校務の効率化をさらに推進することが必要である。加えて勤務時間の可視化と振り返りを定期的に行い、自らの働き方を意識できるようにし、教職員が安心して勤務できる環境を整える。</p> <p>時間外勤務時間について（6月まで）</p> <p>基準1 月30時間平均を超えない 70.59%（34人中24人：昨年度の現時点75.76%）</p> <p>基準2 月60時間平均を超えない 100%（33人中33人：昨年度の現時点100%）</p> <p>大江小学校の平均時間外勤務時間 29時間59分 昨年度（27時間04分）</p> <p>大阪市立小学校の平均時間外勤務時間 29時間05分 昨年度（30時間44分）</p>